

# 学 年 通 信 第六号

平成21年12月22日

明秀学園日立高等学校 第1学年

師走の候、皆様方にはいよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。  
明秀日立生(白梅)の諸君。「明るく・清く・凛々しく」の建学の精神に照らし合わせ、それに適うよう日々を過ごしていますか。

「やるからやる気が出る」を実感していますか。

さて、学年通信第六号は、充実の冬を迎えた「百鍊の人」たる諸君に、これからをいかに過ごすかを伝授したい。第六号も、よく目につくところに貼り付けておいて下さい。

『光陰矢の如し。少年老いやすく学成り難し』。諸君！思索にふけり、垣根を越えよ。



## 意識という垣根を越える

### —学習習慣があつてこそその学力向上—

学習習慣がついたかのアンケート結果は約26%が中学生の頃に比べてついたとの回答を得た。

高校での学習はやったもの勝ちと言えます。中学校の頃どんなに成績が良くても、学習習慣の下支えがなければ、高校に入ってから成績は凋落の一途をたどります。もちろん、学習習慣の下支えがあれば、学力はうなぎ上りについていくと言つていいでしょう。

学習する習慣をつけるためのダイアリーとリテラシーノートです。この記録帳の活用がなされていますか。26%の人達はこれらの記録帳を活用している人達だとも言えます。授業間の休み時間に記入するという習慣がついてしまえばなんでもないものです。新学期に入ったら、活用している人達がどうしているかを見倣うのもよいでしょう。とにかく『まずは動く』ことです。

この冬休みは入学試験等で長期となります。74%の諸君は、模試等の見直しも含めて2学期の総復習を実施し、新学期からの学習習慣の礎を築いて下さい。26%の諸君は「前へ」進んで下さい。

### —我々を精神的に成長へと導く意識—

下手に褒められたり、やろうとしたときに「やって」と言われたりするときに芽生える感情、「苦手」意識や「嫌い」という感情、「自分だけじゃない、周りの人だって…」という逃げ口上など、こうした自分自身の成長を妨げる意識から我々は逃れねばなりません。そして、こうした意識の垣根をひとつひとつ越えていくことが精神の成長と言えます。

我々を精神的に成長へと導く意識とは、我々が「寒烈を冒し、天下の春に魁けて、馥郁たる香りを放つ」白梅を目指し、百鍊の途上にあることや、「明るく・清く・凛々しく」の建学の精神、「至誠・敬愛・自律・勤勉・協力」の校訓を意識する意識です。これらを意識するかしないかでは、皆さんの行動に大きな差異が生じます。来し方を振り返れば、どんな意識があなた方の行動を左右していたか思い出せるでしょう。その行動の結果が入学してからこれまでに現れています。

寒さの厳しい冬は、精神の鍛錬にもってこいの季節。臍下丹田(せいかたんでん)に力を入れた「できる姿勢」で、これまでの自分を見つめ直し、思索にふけり、意識の垣根を越えて下さい。

2月には2本の白梅が咲きます。あなた方がこの学園に来て初めて見る白梅です。

## Yes, Virginia, there is a Santa Claus

編集者さま：私は8歳です。

私の何人かの友だちはサンタクロースはいないと言います。

パパは「サンが言うことならそのとおりだ」と言います。

どうか私に本当のことを教えてください；サンタクロースはいるのでしょうか？

ヴァージニア・オハンロン

ヴァージニア、あなたのお友達は間違っています。何でも疑ってかかるご時世なので、それにすっかり感染してしまっているのでしょう。そうした人たちは自分たちが見たものしか信じません。自分たちの狭い心で理解出来ないものに会おうと、こんなことありっこない、で済ませてしまいます。ヴァージニア、心っていうのは、大人の心であれ、子供の心であれ、みんな狭いものです。私たちのこの巨大な宇宙と比べると、人類はちっぽけな虫、アリのような存在です。私たちをとりまく広大無辺の世界と比較したら、あらゆる真実と知識を有する知能が見たとしたら、人類の知性などまるで取るに足りないものです。

そう、ヴァージニア、サンタさんはいます。愛や思いやりや献身がたしかに存在するように。この世界にそれが満ちていて、人生に言い知れない美しさと喜びを与えてくれているのは、あなたもよく知っているでしょう。ああ、サンタさんがいない世界なんて、なんて下らない世界でしょう！まるで、この世から、たくさんのヴァージニアが一度に消えてしまったのも同じじゃないですか。子供らしい信仰も、詩も、ロマンスも、何もかもかき消え、後には生きる苦しさにも耐えることも出来ない世界が残るだけです。楽しみと言えば、実際に手でさわり、目で見えるものだけ。子供時代に世界を包んでいた永遠の灯かりは、スイッチをひねるように消えてしまいます。

サンタさんを信じない！それは、妖精だって信じない、と言ってるのも同じです。クリスマス・イヴにサンタさんが煙突から降りてくるのを見たいなら、パパにお願いして、煙突という煙突に見張を置くことも出来るでしょう。でも、たとえサンタさんが降りてくるのを目撃出来なくても、それが何の証拠になるのでしょうか。だれもサンタさんを見ていないからと言って、それがサンタさんがいない証になるのでしょうか。この世で最もたしかかな真実は、子供も大人も目にすることが出来ないものです。あなたはこれまでに妖精たちが草原でダンスを踊っているのを見たことがありますか。もちろんないと思います。けれど、だから妖精など存在しない、と言えるのでしょうか。この世界にいる、姿がなく見ることが出来ない不思議なものを、すべて思い付いたり勝手にでっかあげたり出来る人間などいないはずですよ。

赤ちゃんのガラガラを分解して、どんな仕組みで音が鳴っているか、中身を調べてみることは出来るでしょう。しかし、目に見えない世界を蔽っているヴェールは、一番の力持ちでも、たとえこれまで存在したあらゆる力持ちが集まっても引き裂くことは出来ません。信仰と、詩と、愛情と、ロマンスだけが、そのカーテンを開き、その向うにある、言葉に出来ないほど美しく素晴らしいものをかいま見せ、その姿を描き出してくれます。それはすべて本当のことか？ああ、ヴァージニア。この世で、それほど真実で永遠に変わらないものはありません。

サンタさんがいない！やれやれ！サンタさんはちゃんとして、そして永遠に生きています。今から千年の間、いやヴァージニア、それどころか、一万年のさらに十倍だって、サンタさんは子供たちの心を喜びで満たし続けてくれるでしょう。

これは、皆さんに贈るクリスマスカードです。「ニューヨーク・サン」という新聞社が女の子の問い合わせて社説として答えたものです。これを書いた記者フランシス・チャーチも白梅の人ですね。

来年が皆さんにとって素晴らしい年となりますように、祈念しています。